

令和元年度

学校自己点検・評価報告書

令和2年11月

学校法人筑波研究学園
成田つくば航空専門学校

○令和元年度 学校自己評価について

成田つくば航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

1. 対象期間

平成31年3月31日 ～ 令和2年3月31日

○委員会開催 令和2年11月18日(水) 16:40～18:00

2. 実施方法

(1) 学内に「学校自己点検・評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っています。

委員会構成：委員長 校長

委員 事務部長、教務部長

航空整備学科長、グランドサポート学科長

(2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行いました。

(3) 評価は年一回行います。

(4) 評価結果は、課題と改善についてホームページにて公表します。

3. 自己評価は、以下の10項目を実施します。

(1) 教育理念・目標

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の受入れ募集

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

○評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価 4. 0

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④ 3 2 1
2. 学校における職業教育の特色を示しているか	④ 3 2 1
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
4. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1 学校の教育理念は、就学規程に明記されている。
現教育理念「学徒の意志を尊重し、世を支える現場力を見据え、全人教育を旨とし、実践と反省と改善を継続し、自発力ある人材を育成する。（就学規程 2 条）」
- 2 航空分野に特化した科目の設定を行い、航空業界を担うグローバルな人材の育成を教育目標としている。また、関連機関・企業との教育連携を通して実践的な人材を育成することを特色としている。
- 3 社会経済の状況と航空業界、及び地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。
- 4 学校の理念・教育目標、特色・将来構想などは、ホームページで公開され、学生・保護者を始め一般に周知されている。
- 5 学校、学科の教育目標・育成人材像は、各学科において業界研究を行い、学科会議や教育課程編成委員会等を通して決定している。

【今後の改善方策】

- 1～5 昨年度、教育理念、目的、育成人材像等に関する情報の整理を目的に内容更新を行い就学規程を再設定した。（平成 31 年 4 月 1 日付け）。引き続き学生、保護者、教職員間の共通理解を図っていく。

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
4. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1 学校の運営方針は「革新的かつ安定した経営により学生が勉強に専念できる環境を整備し、教職員が働きやすい環境を作るとともに、地元との共生を図り、当校の関係者すべてから愛され、誇りに思われる学校を目指します」と定められている。
- 2 事業計画は、将来構想、教育活動の実績を踏まえて策定され理事会・評議員会において承認を得ている。(平成30年度理事会にて平成31年度事業計画を承認)
- 3 学校の意思決定は、毎月の校務会議(必要により臨時校務会議)により決定されている。また、会議の運営については、業務実施要領「会議体要領」に規定されている。
- 4 学校の人事、給与に関する規程等は定められており、法人事務局において管理している。一昨年度(平成30年6月)に関連規程の見直しを実施され、担当者より関係者に説明が実施された。
- 5 学校の組織整備等の意思決定は、校務会議での方針決定を経て法人本部で最終決定される仕組みとなっている。
- 6 航空業界や関連企業等との関係は密接な連携や求人採用等を通じた関係強化、社会規範の遵守を心掛けている。地域との関係は良好な関係を築いている。
- 7 情報公開は、ホームページ、機関誌(N-TAC Network)、学校案内等で行っている。また、学校関係者評価、教員情報、職業実践専門課程認定学科基本情報(様式4)は年度毎に更新し、常にホームページ上で最新の情報を公開している。
- 8 学校管理システムの導入により、学生の情報管理がシステム化し、効率化が進んでいる。(平成29年度から本格運用されている)

【今後の改善方策】

- 2 航空専門学校として安定的な運営には若い教員の確保は欠かせない。教員採用にあたり、適切な人員計画の基に早目の人財確保が不可欠である。

- 4 規程類は閲覧可能とし、保管場所についても周知されている。
- 6 地域との関係性維持のために、地域住民の意見に耳を傾け、騒音対策・学生マナーの向上等、改善を継続していく。

(3) 教育活動

評価 3. 9

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
3. 一学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
6. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
13. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1～5 教育課程は、教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会、関連行政機関・第三者機関等から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。
- 6 学科は、各専門分野の企業と連携し、年度計画を基に外部実習や外部講師による演習授業を導入して職業教育の充実を図っている。
- 7 学生からの授業改善アンケートをもとにした授業評価体制は整備されているが、昨年度は諸般の事情から実施出来なかった。今年度改めて授業総括（自己点検・評価）

- を実施し、授業方法の改善・工夫、教員配置の見直しなどに活用していく。
- 8 教育課程編成委員会を毎年度2回開催し、関連企業等からの評価を取り入れている。
- 9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、専門学校設置基準をもとに就学規程で明確に定められている。また、省庁の認定学科においては定められた基準を遵守している。
- 10 学科では、資格取得の指導体制、目標資格等に対するカリキュラムを体系的に構築している。また、放課後や休業期間中に対策授業等を実施し、実績向上に繋げている。
- 11 本校の教員体制は、省庁や検定協会などの認定要件を満たしている。
- 12 各学科の教育内容に応じた教員確保は、かなり厳しいものの連携企業からの出向者受け入れが実施されている。(出向者受け入れは航空整備学科のみ)
- 13 学校及び学科で研修計画を立て、教員の指導力育成、先端的な知識・技能等の習得を組織的に行えるよう整備を進めており、業界団体や企業等と連携した研修を行っている。連携企業からの情報を共有する事により各教員の資質向上に活かしている。
- 14 関連企業と連携した研修を行い、職員の能力開発に努めている。

【今後の改善方策】

- 6 各専門分野の職業教育を一層充実させていくためにも、関連行政機関、業界団体、企業等との連携を図れるよう今後も柔軟に対応して行く。
- 7 授業評価実施後のフォローアップ体制を継続し、カリキュラム充実に繋げていく。
- 12 前述(2)学校運営2項と同様、ベテラン教官の交代要員として教員確保に向けた継続的な対応が必要で、多方面に働きかけを継続する。
- 13 人材育成目標の達成に向けて、教員一人ひとりが自ら自己研鑽に努めると共に、業界団体や企業等との連携を図っていく。また、そこで得た知識や経験を教育活動にフィードバックし人材育成の指導力向上に繋げていく。
- 14 今後、航空技術協会など専門分野に関する研修への参加を計画し、更なる能力開発に努めたい。

(4) 学修成果

評価 3. 8

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
1. 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
2. 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
3. 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1 令和元年度の就職内定率は100%。(就職対象56人、内定者56人)引き続き第1志望企業への100%就職を目指し、補習教育・通常授業外面接指導にて就職率向上を目指している。
- 2 資格ごとの合格率と学習効果を評価し、教材の変更や教え方の改善を常に行っている。グランドサポート学科では、DIPLOMA基礎の資格取得率は100%を維持している。航空整備学科では、放課後・休業期間中に資格試験対策授業を実施し、合格率向上に繋げている。又、英語検定の受験促進を促す指導を行った。
- 3 欠席が多い学生に対し、早い時期から担任・学科長が保護者と連携して対応している。令和元年実績：退学者4名(整備1、G/S3)128名中4名退学で退学率3.1%(H30年度実績：1.5%)
- 4 社会的活躍については、必要に応じ可能な限り情報収集を心掛けている。在校生の状況は担任が把握しており、必要に応じて校務会議で報告している。
- 5 卒業生の動向は、機関紙の連載記事やキャンパスガイド作成時の記事作成のための取材を通じて本人や企業から情報を収集し、教育活動の改善に役立てている。又、卒業生の来校時を捕らえて自身のキャリア形成状況を聞き取り在校生の授業や学科運営に反映している。

【今後の改善方策】

- 1 第一志望企業への内定を獲得するため、SPI、面接指導、企業研究、就職に有利な資格の取得等、就職指導の内容を引き続き向上させていく。
- 2 航空従事者養成施設として、二等航空運航整備士資格取得は責務と捉えている。それ以外の資格取得率向上に向けた施策を各学科で継続中。
- 3 心身面や経済的な事情を抱えている学生に対しては、引き続き、学科と教務・進路情報室・事務部が連携を図っていく。
- 4 5 学科では、卒業生の勤務先企業等(学科特有の業界)と交流する機会を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めていく。また、教育課程への意見や提案を聴取し専門分野のキャリア教育の構築を図っていく。

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
6. 学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
7. 保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
8. 卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
10. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1 進路・就職に関する担当部長、学科ごとの就職担当者を配置しており、求人情報の閲覧スペース、企業対応のため進路指導室を設置している。求人情報掲示板を設置し、学生の目に触れる機会を増やした。求人情報は管理されており閲覧可能な状態である。又、両学科共にカリキュラムとして「就職指導」の授業を設け支援している。
- 2 学生相談に関する体制は、クラス担任を中心に学科及び進路情報室により支援している。学生相談室を設置して学生の悩み等を把握するように努めている。近年、心身的に悩みを持つ生徒が年々増えている傾向にあり、担任を中心に保護者を含んだ対応を行っている。
- 3 学生の経済的支援については、高校の成績による入学金免除制度、日本学生支援機構奨学金、茨城県奨学資金、教育ローン等の支援体制があり、募集要項に明示している。
- 4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されている。昨年度、保健室を設け、静養ベッドを設置した。又、職員室前にAEDを設置している。
- 5 以前は一部学生から部（クラブ）の創設の声もあったが現在はない。学生に時間的余裕がないこともあり、現状は課外活動に対する支援体制は実施していない。
- 6 学生食堂を完備し、安価で美味しい食の提供に努めている。生活面では、通学の便を図るためのスクールバスを運行しており、自動車・バイク通学をする学生には駐車場を完備している。通学が困難な学生のために指定寮（2食付）を設置している。
- 7 機関紙を送付して連携を図っている。
学生指導面においては、担任が保護者と連携して対応しており、状況に応じて学科

長や教務部が関わることもある。

- 8 卒業後の継続学習や資格取得の支援を行っている。平成30年度は、航空整備学科で1名を受入れ、本校で2等航空整備士を受験し資格を取得した。グランドサポート学科では就職先企業に於ける特殊器材運転資格取得訓練を可能な限り受け入れ、学校の器材を提供した。
- 9 令和元年度は、企業職員の資格取得支援のため施設設備を貸し出した。(基本技術Ⅱの国家技能審査を当校にて実施) 過去に企業職員の資格取得支援(工場整備士資格取得)のため、教官の派遣を行った実績(平成30年度1名派遣)がある。今後は、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備していく。
- 10 高等学校からの依頼により、職業教育の一環として模擬授業を継続して実施しており、好評を得ている。

【今後の改善方策】

- 1 より綿密な就職支援を実現するため、各学科からそれぞれの分野に精通している者を担当者として配置することとし、一昨年より整備学科に担当者を配置した。きめ細かい就活支援に努めていく。
- 2 学生相談においては、メンタル面で問題を抱える学生への対応に、担任を中心に校内組織で事態の深刻化を回避する体制を整えている。
- 3 学生に対する経済支援では、成績優秀者に対する特待制度なども含め、経済的に不利であっても努力している学生への支援を検討している。
- 4 必要に応じて学校医や専門機関との連携についても検討する。
- 5 サークル(部)の設置は、今後学生の希望を把握し体制を検討していく。なお、以前から昼休みと放課後にエプロンの一部を運動スペースとして解放し多くの学生が利用している。*運動用具として、野球用グラブ・ボール、サッカーボール、バドミントンラケット等を備えている。
- 8 当校として、卒業後3年未満の学生に対して就職活動への支援を今後も積極的に行っていく。
- 9 社会人や企業からの要望を収集し、可能な範囲で講習会や講師派遣、施設の貸し出し等を検討していく。

(6) 教育環境

評価 3. 7

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
3. 防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

【状況と課題】

- 2等航空運航整備士・基本技術Ⅰの指定養成施設としての施設・設備は整えられた。現在は基本技術Ⅱの指定養成施設認定に向けてテストコースを受験中である。専門教育に必要な施設設備は指定基準を満足しているものの中長期計画の中で、実験実習機材等の一層の整備・充実を図る必要がある。
- 各学科に合わせた実習・企業研修は整備されているが、海外研修については学科として特に必要とは考えていない。
- 地震・火災を想定した防災訓練は年3回実施している。パッケージ型の消火設備を設置し、防災体制を整えた。

【今後の改善方策】

- 今後予想される学生増への対応と国土交通大臣指定 航空従事者養成施設として十分な実習を行うため、施設・設備の更なる充実を図る。
- 防災体制の強化として、取手消防署と連携した防災訓練も検討していく。

(7) 学生の受入れ募集

評価 4. 0

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
3. 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 職業実践専門課程の連携企業との見学会を企画し、効果的な募集活動に繋がった。入学選考基準は、規程等で明確に定められており、入学選考の公平性を確保するための合否判定体制や情報管理等のチェック体制が整備されている。魅力ある体験入学になるよう、スペシャルイベントの企画、初回/リピーター等参加者に合わせて体験実習内容を柔軟に変更して実施した。
- 学校パンフレット、ホームページ、進学情報媒体等において、特徴ある教育活動、

学修成果等について正確に分かりやすく紹介している。高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供も行われている。

継続的な高等学校への訪問により、高校教員の航空分野の将来性についての理解、信頼出来る航空専門学校としての位置付け向上に繋げている。

- 3 学納金等徴収する金額はすべて明示しており妥当なものといえる。また、入学辞退者の授業料返還については、文部科学省通知の趣旨に基づき適正に取扱っている。学納金の支払い方法は分割でも可としているが、事前に提出されている納金計画通りに納金していない学生について、適切に納金してもらうため、学科・担任と情報共有を行い、学生への働きかけや納金計画の確認などを行える体制を構築した。

【今後の改善方策】

- 1 2 4月入学生70人確保を目標に、資料請求数、ガイダンス参加状況、体験入学参加状況、出願数等の結果検証を行う。戦略の質向上を図ると共に、引き続き連携企業との見学会等イベントを企画し学生の出願者増に繋げる。

(8) 財務

評価 3. 8

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
3. 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1 法人全体として、令和元年度の決算は黒字であり、N-TAC として更なる経費削減に取り組んだ。
- 2 平成30年度予算では、前年赤字決算の解消を目指した予算とし、経費節減に取り組んだ。
- 3 公認会計士による日常的相談体制等、法に定められた以上の対応を実施している。
- 4 ホームページへの公開ほか希望者への閲覧体制を整えている。

【今後の改善方策】

- 1 財務基盤の安定には、入学者確保や退学者の低減、経費節減に努めていかななくてはならないことを全教職員の共通理解として取り組む。

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
4. 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【状況と課題】

- 1 法令遵守に留意し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいた学校法人運営、学校運営を行っている。
- 2 個人情報保護に関する対策は、法律及び学校法人で定めている個人情報管理規程に則り学内情報の管理を実施している。しかし、情報の取り扱いが社会問題化していることから教職員間の再認識、共通理解が必要である。
*就業規則、第3章服務規律 第34条個人情報保護
- 3 自己評価の実施に必要な規則や組織体制、情報公開するまでの流れについて改善が必要である。今後は、評価結果の分析や課題点の明確化、これらを学校改善に繋げていくための体制を整えていかななくてはならない。
- 4 評価結果は報告書として閲覧可能な状況になっており、ホームページに掲載するなど広く社会に公表している。

【今後の改善方策】

- 2 学校法人で定めている個人情報管理規程をもとに、個人情報の取り扱いに関する体制・基本ルール、保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぎ、情報管理に関する社会的責任について教職員の共通理解を図っていく。
- 3 評価結果の分析により課題点を明確にすること、その課題をどう解決していくか検討をしっかりと行い、実行に移すまでの流れを構築していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価 3.0

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

【状況と課題】

- 1 学校の施設利用については、英語検定（令和元年度まで実施）、各種国家試験会場として教室の提供を行っている。エプロンを緊急時のドクターヘリの離着陸場とし、校舎を災害時の避難場所として地域へ便利供与している。毎週金曜日に学校及び周辺の美化、環境整備等を実施している。ドクターヘリの実績は過去1回（2018年8/3日）
- 2 ボランティア活動については、学生個々にて実施しているが、令和元年度、学校地域である取手市小堀地区の清掃活動に学生/教員で参加した。（8月11日）引き続き学校全体として積極的に奨励、支援していく。
- 3 過去の実績として、業界人向けの教育受託として、企業職員の資格取得支援のため教官の派遣を行った。令和元年度は派遣の機会は無かったが、施設・設備の貸し出しを行った。（5-9参照）

【今後の改善方策】

- 1 社会・地域貢献のために、学校の施設提供を積極的に進める。
- 2 ボランティア活動は、地域社会への貢献ばかりでなく、学生の人格形成や職業意識の向上に繋がるものと考えられ、活動支援ができるよう体制構築を考える。
- 3 今後、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備・検討していく。また、地域貢献のために各種国家試験会場提供や、地元の小・中学生を対象とした職業観の育成に役立つ講座等を検討していく。

以上